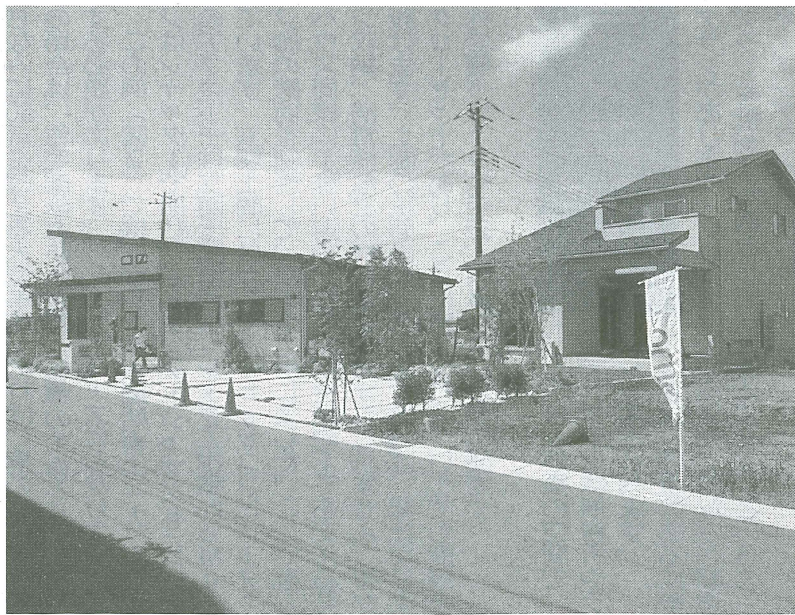


郊外型へのニーズ強まり

分譲戸建ての販売好調

分譲戸建ての販売が好調だと指摘がある。例えば、ポラスグループの中央住宅が7月に行った「ハナミズキ春日部・藤



平屋区画も設けられている「ハナミズキ春日部・藤塚」の様子

塚」(埼玉県春日部市、全22区画)の見学会の席上、同社関係者は分譲住宅の契約状況について、「4月は前年同月比マイナス51%、8月にも同47%と好調さが継続しているという。その「ハナミズキ春日部・藤塚」は、東武スカイツリーライン・一ノ割駅から徒歩23分で、周囲に農地が広がり、古利根川沿いある自然豊かな立地だ。特徴的なのは、全区画(敷地)が200㎡超であり、5区画が平屋建て住戸、更に居住者を対象とした市民農園の利用権も設けられている点だ。

「6月20日の先行販売から約15件の案内客を確保している」(7月2日時点)と言い、9月初旬時点で第1期販売分10棟のうち9棟が販売済みと、顧客の反応は上々のようだ。

もちろん地域差や価格、質的な違いもあるだろう。ただ、「分譲住宅の中でも郊外型に特に顧客ニーズが強い」との見方もあり、それを裏付けるような販売状況である。